



6月の園だより



平成 30年 6月 1日

さかえ保育園

今月の予定

1日(金)	
2日(土)	
3日(日)	
4日(月)	体のしくみ、歯の話(幼児) ラップおにぎり作り(幼児)
5日(火)	季節の食材紹介(乳児) ピーマンの種取り(れんげ) 英語教室(ゆり)
6日(水)	体操教室
7日(木)	包丁練習・梅ジュース作り (ゆり)
8日(金)	
9日(土)	
10日(日)	
11日(月)	包丁練習(ゆり)
12日(火)	誕生会
13日(水)	体操教室
14日(木)	ポニー教室
15日(金)	季節の食材紹介(幼児)
16日(土)	
17日(日)	
18日(月)	季節の食材紹介(乳児) ラップおにぎり作り(幼児)
19日(火)	ミニトマトのヘタ取り(たんぽぽ)
20日(水)	体操教室
21日(木)	歯科健診・乳児健診
22日(金)	箸指導(れんげ) 5歳児保護者会
23日(土)	
24日(日)	
25日(月)	プール開き
26日(火)	英語教室(ゆり)
27日(水)	体操教室
28日(木)	絹さやの筋取り(れんげ)
29日(金)	ピーマンの種取り(すみれ)
30日(土)	

☆今月の誕生児☆

11日 おだぎり じゅんくん (5歳)

12日 はっとり みなとくん (4歳)



今年は年度初めから体調を崩すお子さんが多くみられましたが、諸々理由があったようです。気温・湿度・気圧・・・、激しい温度変化、身体が暑さに慣れる前の高温、高湿度による早期熱中症、天気がころころと変わり見えない気圧変化による体調不良、大人以上に小さな体に襲い掛かるものは大きかったようです。熱中症というものが現在では夏のポピュラーな疾患となっていますが、最近は気象病という言葉が頻りに耳に入るようになりまして。緩やかに温度変化があり、湿度を感じ、夏の高気圧が呼び込む積乱雲に季節を感じていましたが、ここ数か月、上がったり下がったり日替わりメニューで変わる気温、湿気、低気圧と高気圧のせめぎ合いに大人も子どもも身体的に悲鳴を上げているようです。例年ならば食中毒に気を付けましょう、手洗いをしっかりしましょうと話しておけば何となく時節柄のお手紙になるものですが、今年は些か例年と様子が違います。例年以上に体調変化に神経質にならなければならないようです。

また、かねてより保護者の皆さんには注意喚起させていただいている「はしか」の予防接種ですが免疫検査は簡単に血液検査でわかるようです。ご自身がかかってしまうこともさることながら、保育園は小さな子どもの集まる場所です。その子どもにうつしてしまわないよう、その子ども達の保護者にうつしてしまわないよう、ご自身の職場の方々にもうつしてしまわないよう、予防接種をお受けください。年配の方、20歳代前半の方は比較的大丈夫なような話も出てますが、加齢によって抗体がなくなっている方もいるそうです。詳細は看護師にお問い合わせいただき保育園で生活するすべての子どものためにご認識いただき接種のご検討をお願いします。

— 園長 —



給食より

食中毒予防について

梅雨から夏にかけて食中毒が発生しやすくなります。予防効果のある食材を取り入れていきましょう。

☆殺菌作用や防腐作用のある食材

- ・生姜、茗荷、葱、にんにく、玉葱・・・(殺菌作用)
- ・梅干し、酢・・・(防腐・殺菌作用)

<メニュー例> 鶏肉の香味焼き、梅ご飯 等

☆腸内環境を整えて、免疫力がつく食材

- ・きのこ類、豆類、海藻類・・・(食物繊維が豊富)
- ・ヨーグルト、納豆・・・(乳酸菌が豊富)

<メニュー例> 大豆とひじき煮、バナナのヨーグルト和え 等

☆免疫力や抵抗力を上げるサポートをしてくれる食材

- ・豚肉、レバー、魚類(特にうなぎ)・・・(ビタミンB群が豊富)

<メニュー例> 豚肉の生姜焼き、うなぎ玉丼 等

※毎年6月は「食育月間」です。保育園では、今月も様々な食育活動を行ってまいります。保育園で行った食育活動(絹さやの筋取り、ミニトマトのヘタ取り等)を御家庭でも行っていただき、御家庭と保育園とで食育を一緒に進めていきましょう。

※4月に行われた保健所立ち入り検査の結果ですが、オールAの評価をいただきました。



保健より

<歯ブラシによる子どもの事故>

6月21日(木)は歯科健診です。年2回の健診には子どもの歯磨きはできてるかな?大人の仕上げ磨きはどうか?と親子で確認してみてくださいね。

歯磨きに必要歯ブラシですが、立って歩きまわらようになる1歳くらいから、行動が活発になる3歳前後の間に、転倒による歯・口の外傷事故が増えます。

歯ブラシ事故の救急搬送人員は1、2歳が大半で、受傷の要因の2/3が歯磨き中の転倒です。また、箸、スプーン、歯ブラシで受傷する事故の多くは、食事中、歯磨き中に遊んでいたり、歩きまわったりしていることが原因です。

歯ブラシは鋭利な部分がないため、危険性を認識していない保護者も多いようですが、くわえたまま全身の体重が加われば簡単に喉等に刺さります。ひどい場合には脳に達する危険もありますので、就学前のお子さんには歯磨きの時以外は歯ブラシを持たせないようにして、目を離さないようにしましょう。